（定例・個人）　　個人　　（報告：伊 藤　）

山（山域・ルート）　**和 名 倉 山**

【日時】１８年　４月２２日（土）～　　月　　日（　）（　　泊　　日）

【メンバー】

伊藤、他１名

（計　２名）

【行動記録】

川又の吊橋(5 時)～小尾根上（6 時 30 分）
笹薮手前広場（7 時 15 分）～尾根上
（8 時 10 分）～1826 標高点（9 時 20 分）
～川又分岐（10 時 15 分）～二瀬分岐
（10 時 25 分）～和名倉山頂（10 時 50 分）
笹ツ場（11 時 40 分）～展望台
（12 時 30 分）～造林小屋跡（13 時 15 分）～反射板（14 時 10 分）～二瀬吊橋（15 時 10 分）

上り　約６時間　下り　約３時間３０分

【装備・食料等】

雨具、地図、コンパス、食料、その他

【感想】

同行者が出来、楽しみにしていたヒルメシ尾根と二瀬尾根にチャレンジしました。
下山口と登山口に車を置き、先ずはヒルメシ尾根から入山。その昔は一般登山道だった両コースも、今は廃道となり且つ戦後の乱伐及び約 40 年前の山火事で無残にも荒れた山になってしまいました。ヒルメシ尾根の下部は、仕事道と思われる踏み跡があり問題はありません。徐々に高度を稼ぐにつれて踏み跡も薄くなり赤テープも少々、
テープの色は年月が経ち色も抜けて分かり辛いです。普段は目線を下に向けていますが、常に回りを気にしていないと直ぐにコースをはずしてしまうので注意が必要です。
小尾根からは以前の面影を残した道となっており、上信越や八ケ岳、南アルプスの山々の展望が楽しめます。暫らくすると、いよいよ笹薮に突入となります。猛烈な笹藪は背丈を越す高さで、1200M から 1700M 程続き、左右被い重なるように道を塞いでおり、中腰になりなが

ら笹藪を押し返すように急登しなければなりません。一旦笹藪は切れて広場に出ますが、ここから振り返ってみると完全に回りは同じような風景で目印も無く、獣道が何本か横切っているので、体力や時間が限られている場合、下山にこのコースを利用するのは危険です。笹藪を抜けると道は山頂を巻くように西へ延びており、踏み跡を探しながら進みます。幾度となく踏み跡を見失いますがその度に引き返し本来の踏み跡を見つけ先へ進みます。以前作業小屋があったと思われる場所には、一升瓶や食器などが散乱しており周りの環境とはマッチしません。更に道は曲沢を通過しますが、曲沢の頭部はまだ前面凍結しており、恐る恐る這いつくばって通過します。ようやく、三ノ瀬から続く主脈の川又分岐に到着し休憩後、山頂へ向かいます。途中、千代蔵休場と呼ばれる草原の斜面で富士山や南アルプスの展望を楽しみ、まだ雪が残る山頂で記念撮影後、二瀬分岐から二瀬尾根へ。二瀬尾根は、展望があまり無く又 1800M 付近から造林小屋跡上の水場まではこちらも藪漕ぎを強いられますが、ヒルメシ尾根に比べれば楽勝です。ただ、ここ近年二瀬尾根に入る人が増えたらしく、笹藪は人手が入っている感じで辛いものはありませんが、道迷いが増えているのであちらこちらに迷いそうな所は黄色テープで塞いでいます。造林小屋跡にて小休止後、軌道線跡を進み電波反射板へ。

此処からは、二瀬ダムが一望でき気持ちの良い所です。直ぐ下にゴールの吊橋が見えたので終わったと思いましたが、本当にそう思うまで、更に 1 時間の急降下を強いられる事となりました。

当初、大型ザックでテント泊を考えておりましたが、あの猛烈な笹藪の事を考えると日帰りにして良かったと思います。しかし、和名倉山は何処から登っても距離があるのでどちらが良いのか判断するのが難しいところですが、和名倉山の重厚感や味わいのある雰囲気は何度となく足を向けたくなるところです。